

燦々便り 125

続き(2)

部活を始めて、練習とは、準備体操、素振り、ボール拾い、そんな日課です。
今とかなり違いますね。半年も経たないうちに、同学年は私1人になっていました。
いえ、もう1人いました。彼女は最初から、学校の様子を調べて、テニスをする為に来たようでした。毎日、部活の始まる時間になると、彼女のお父さんが現れ、指導されていました。コートのおじさんはみんなの為に壁打ちボードや、ボールを上下にゴム紐でぶら下げて実際にボールを打つ素振り器など工夫していろいろ作ってくれましたので私達は飽きることは無かったです。

でもどうしようもない私が残ってしまい、呆れていたと思うのですが、おじさんは仕方なく(?)、ネコのペアとして、指導してくれないかとお父さんに頼んだそうです。

おじさんがどれだけ面倒を見てくれたか、卒業して知ることばかりです。
クラブのメンバーのある人は、私が、放課後現れると、ボレーのボール出しをコートの片隅で相手を毎日何年もしてくれました。
まだ科学的指導などなく、根性しかない時代でしたから、水を飲むな!とかうさぎ飛びとか不思議な練習ばかりでした。

部員は、学年ごとに2名づついました。ネコのお父さん、コートのおじさん、クラブのメンバーの人達に支えられ、家族のような感じでした。

先輩や、大会の練習などで多くの選手も訪れました。私達は見ているだけでしたが、
ネコのお父さんは娘がテニスを離れてもコーチはされていたようで、全日本チャンピオンを育て上げられたことを、私もテニスを離れ、子育てをしながら、テレビで知りました。私が中学の頃、沢松姉妹が活躍始めた頃で、大会の時はいつも出会っていました

彼女達のお父さんもいつも付き添って、サポートされていました。

オリンピックを見ていると、お父さんと言うのはお父さん自身も夢を追い、生きがいなのかも知れないですね。家族のサポートは精神的にありがたく大きな力になるだろうと思います

第45回 能勢杯

今年も能勢杯、よろしくお願いします。
気候変動が気になりますが、閉じこまることなく、出会いを楽しんでください。
日程は一応決めましたが、10月頃迄に終わりたいと考えています
無理することなく進めてください。

出会う事、ゲームをする事が目的です。
オリンピックのように命懸けではありませんが、どの選手も、自身の種目をもっと広めたい!!
と言いました。そのためには能勢杯みたいな形が大切
オリンピックは参加することに、意義がある。
この言葉を能勢杯にも当てはめましょう。
いろんな経験があるから、楽しむ事を喜べます。